

最新の技術・製品情報をお届けします



精密機械



東京ロボットセンターショールーム 「Kawasaki Robostage」オープン

川崎重工は、東京お台場に新たなロボット情報発信基地として、東京ロボットセンターショールーム「Kawasaki Robostage (カワサキロボステージ)」をオープンし、営業を開始しました。

今回オープンした「Kawasaki Robostage」は、「人間の創造力」と「Kawasakiの技術力」が会い、人とロボットとの新しい関係を予感させる場所として「人とロボットの共存・協調の実現」をメインコンセプトとし、これから到来するロボット社会に向けた、人とロボットの共存・協調のありかたを提案します。

川崎重工は、これまで国内外の営業・サービス拠点におけるデモ設備や、2014年10月に西神戸工場に開設した国内最大規模のロボットショールームを通じて、ロボットの導入を具体的に検討される企業向けにロボットの活用を提案してきました。今回の「Kawasaki Robostage」は、ロボットの導入を検討される企業だけでなく、広く一般の方々にもご来場いただき、見て、体験して、感じていただくことで、ロボットへの理解を深めていただく空間の提供を目指しています。

「easy to use」なロボットが体験でき、2020年のロボット国際競技大会にもアピールできる拠点とすることで、政府が目指すロボット産業の発展、ならびに中小企業のロボット普及・浸透に貢献していきます。



■「Kawasaki Robostage」概要

所在地▷東京都港区台場二丁目3番1号
交通アクセス▷臨海新交通ゆりかもめ
「お台場海浜公園駅」下車 徒歩約5分
東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート駅」下車 徒歩約7分
主要展示ロボット▷双腕スカラロボット「duAro (デュアロ)」、
大型ロボット「BX165」ほか多数 (随時更新予定)



左から、橋本ロボットビジネスセンター長、金花社長、市川紗椰さん

航空宇宙



航空自衛隊向けC-2輸送機の量産初号機を納入



川崎重工は、岐阜工場において、航空自衛隊向けC-2輸送機の量産初号機を防衛省に納入しました。

C-2輸送機は、航空自衛隊のC-1輸送機の後継機として、防衛省が2001年度より開発を進めてきた航空機です。機体の大型化により、貨物搭載量を大幅に増加させたほか、低高度飛行における操縦性を高める新規開発の飛行管理システムや、機内貨物の積み降ろしの集中管理によって省力化を可能とした搭載システムを採用することで、操縦士や乗員の負荷を低減しています。また、米国ゼネラル・エレクトリック社製のエンジンを搭載し、C-1輸送機を大幅に上回る速度、航続距離等を実現しています。

C-2輸送機については、2011年度に防衛省と量産機の製造に関する最初の契約を締結し、各種改善内容を量産機的设计に反映して製造を進めてきました。今回納入した量産初号機に引き続き、量産2号機以降も順次納入していく予定です。

プラント・環境



北海道電力から世界最大級の 地上式LNGタンクを受注

川崎重工は、株式会社大林組と共同で、北海道電力株式会社から石狩LNG基地向け地上式LNGタンク1基の建設工事を受注しました。本タンクは、2020年に運用開始する予定です。

今回受注したLNGタンクは、容量23万KLのPC(プレストレストコンクリート)防液堤外槽一体型のタンクで、地上式LNGタンクとしては世界最大級です。本タンクは、石狩湾新港発電所への燃料ガス供給

に寄与する燃料貯蔵設備として設置するもので、北海道電力が石狩LNG基地内に所有する2基目のLNGタンクとなります。

石狩湾新港発電所は、北海道電力として初となるLNG火力発電所で、既設火力発電所の経年化に対応するとともに、燃料種の多様化、電源の分散化を図り、将来的な電力の安定供給を確実にすることが期待されています。

形式▷PC防液堤外槽一体型 地上式LNGタンク
容量▷23万KL
内槽設計温度▷-162℃
内槽内径▷約86m
貯槽高▷約59m

航空宇宙



岐阜県グリーンスタジアム等の ネーミングライツ(命名権)を取得

川崎重工は、地域貢献活動の一環として、岐阜県と各務原市が共同で公募した「岐阜県グリーンスタジアム」「各務原市ホッケー場」のネーミングライツ(命名権)を取得しました。2016年6月15日より、「川崎重工ホッケースタジアム」の愛称が使用されています。

川崎重工航空宇宙カンパニーの岐阜工場がある各務原市には、国内屈指のホッケー専用施設「岐阜県グリーンスタジアム」があり、またホッケー競技では高校・大学で全国トップレベルの学校があるなど、全国でも有数の「ホッケーの街」となっています。

各務原市総合計画2015~2024においても、2020年東京オリンピックを見据え、「ホッケー王国かかみがはら」として「ホッケーの推進」が掲げられていることから、川崎重工では地域貢献活動の大きな柱としてホッケー支援を位置づけ、今回のネーミングライツに応募しました。



■「川崎重工ホッケースタジアム」概要
対象施設▷岐阜県グリーンスタジアム
各務原市ホッケー場
所在地▷岐阜県各務原市下切町6-1-4

船舶海洋



新開発のLNG運搬船 「LNG FUKUROKUJU」の 引き渡し



川崎重工は、関西電力株式会社および株式会社商船三井向け164,700m³型LNG運搬船「LNG FUKUROKUJU」を引き渡しました。

本船は、2016年6月より運用が開始された新パナマ運河を通峡できる船型として、川崎重工が新たに開発した164,700m³型LNG運搬船の第1番船です。世界の主要なLNGターミナルへ入港できる従来船の船体寸法を維持しつつ、カーゴタンクを大型化し、LNG積載量を増加させることで、LNG輸送コストの削減と船主の多様なLNGトレードに柔軟に対応します。

また、船体構造を改良して重量を軽量化するとともに、水線下の船体形状の最適化を図ることで、推進性能を最大限に高めています。さらに、主機関に川崎重工が開発した再熱式蒸気タービン推進プラント「川崎アドバンストリートタービンプラント* (川崎URAプラント)」を搭載することで、従来の147,000m³型LNG運搬船に比べ、輸送効率において25%以上の大幅な改善を実現しました。

*川崎アドバンストリートタービンプラント(川崎URAプラント)
高圧タービンを回転させた蒸気を一旦ボイラに戻し、再加熱後に中圧タービンへ送り返すという再熱サイクルを採用し、熱効率を大幅に高めた蒸気タービンプラント。